

弁護士としての第二の人生

会員 橘川 歩未

1 弁護士になることを決意するまで

私は、ネイルサロンでネイリストとして働いた後、歯科医院にて歯科助手の仕事をしていた。歯科助手の主な仕事は歯科医師のサポートである。患者さんに関わる機会が多く、患者さんから感謝されることが多かったため、私は歯科助手の仕事にやりがいを感じていた。漠然と今後も歯科助手の仕事が続いていくのだろうと思っていた。

27歳の時、これまで勤めていた歯科医院を退職し、別の歯科医院に移ろうと転職活動を始めたが、7年間続けた歯科助手の経験はあまり評価してもらえず、このまま歯科助手の仕事が続いても先がないと感じたため、歯科助手の仕事を辞めることを決めた。

私はしっかりと自分のキャリアを積み上げたい、生涯情熱を持って働ける仕事がしたいと思うようになり、自分の人生を変えるために弁護士になることを決意した。

2 予備試験、司法試験の合格

猛勉強の末、予備試験に合格した。勉強を通じて自分自身の思考が変わり、身を置く環境も変わり、予備試験の合格は間違いなく私の人生の大きな転機となった。

これまで両親には心配ばかりかけていたが、予備試験・司法試験に合格したことにより、初めて親孝行ができたように感じた。両親に合格を報告した時のことを今でも鮮明に覚えており、今後も忘れることはないと思う。

3 弁護士になって

私は一般民事と企業法務を取り扱っている法律事務所に入所し、一般民事の案件を担当している。具体的には、男女問題、相続、刑事事件、債務整理を取り扱っている。

弁護士登録をしたことにより、「先生」と呼ばれるようになり、責任の重さを日々感じている。

弁護士登録をしてもうすぐ1年になるが、弁護士の仕事は、悩みが尽きないものであることがわかった。私は心のどこかで弁護士は特殊な人間であり、どんな事案でもすんなり解決しているのだろうと思っていたが、弁護士1年目である私自身はもちろん、先輩方も悩みながら日々の業務に向き合っており、正解がない世界で戦っていると感じた。

弁護士登録をしてから忙しい日々が続いており、新しい出来事の連続で、気持ちが追い付かないこともあったが、事件が終結した際、依頼者から「先生に依頼して良かった」「本当にありがとうございました」などと言われるととても嬉しく、頑張った良かったと心から感じた。

今後も一緒に働く人々との関係を大切にしながら、依頼者に満足してもらえるよう精進していきたい。

4 今後の課題

自分には無縁な話だと思っていたが、司法修習生の時に結婚したことにより、女性のキャリア形成について考えるようになった。必死に勉強して念願の弁護士になったため、仕事を精一杯頑張りたい気持ちがあるのは勿論だが、結婚したことにより家庭のことも精一杯頑張りたいと思うようになった。また、30代半ばになり、妊娠・出産についても真剣に考えるようになった。

家庭のために時間を捻出したいが、依頼者対応や書面作成などに追われ、どうしても早く帰宅することが難しく、仕事と家庭のバランスをとることがとても難しいと感じている。子育てをしながら弁護士業をしている先輩方は本当にすごいと思う。

限られた時間をどのように配分すれば良いのか、未だ自分のスタイルを見つけることができていないが、家事・育児をしながら弁護士業をしている先輩方の働き方を参考にさせていただき、これから心身ともに健康でいられる働き方を見つけていきたい。